

よく遊び じっくり学び 正しく選ぶ 子



緑小だより 10月号

令和7年9月30日（火）

茅ヶ崎市立緑が浜小学校
校長 菅野 康一

【日常生活から始まる問題解決】

夏休みが明けても続く猛暑から子どもたちの安全を守るために、学校では必要に応じ熱中症指数を計測し、安全な外遊び・外体育を心がけています。

9月1日以降、熱中症警戒アラート発令で外遊びが出来ない日が、9月11日時点で5日もありました。運動会の練習も、万全を期して取り組んで行きたいと思っています。保護者の皆様につきましては、各学年から出される練習日程をご覧になって、お子様の体調管理をお願いいたします。

さて、4月17日（木）に6年生に実施した「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の本校の結果（国語・算数）を分析いたしましたので、概要をご報告させていただきます。（6年生保護者の皆様には、既に個人結果をお知らせしております。）

1. 教科に関する調査

（1）国語

・全設問に対する平均正答率は、全国、県の平均点とほぼ同程度（やや下回る）の結果となりました。

・個別の設問では、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか」「時間の経過による言葉の変化や世代に

よる言葉の違いに気付くことができるか」「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるか」の設問の正答率が特に高かったです。

・一方「漢字を文の中で正しく使うことができるか」の設問の正答率が特に低かったです。（「暑（い）日」。

同音異義語の「あつい」が書けるか）
（2）算数

・全設問に対する平均正答率は、全国県の平均点とほぼ同程度（やや下回る）の結果となりました。

・個別の設問では、「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるか」の問題や、「異分母の分数の加法の計算をすることができるか」の設問の正答率が特に高かったです。

・一方、「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるか」の設問の正答率が特に低かったです。

（1目盛りが $\frac{1}{3}$ だから、5目盛り目は $\frac{5}{3}$ 又は1と $\frac{2}{3}$ となる。）

（3）理科

・全設問に対する平均正答率は、全国県の平均点とほぼ同程度（やや上回る）の結果となりました。

・個別の設問では、「赤玉土の粒の大

きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップ A の土の量と水の量から、コップ B の条件を書く」の設問の正答率が特に高かったです。

- 一方、「乾電池 2 個のつなぎ方について直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ」の設問の正答率が特に低かったです。（直列つなぎの正しいつなぎかたを理解しているか、＋と－をつなぐことを理解しているか）

— . — . — . — . — . — .

教科に関する調査から見てきたことで、本校が特筆される点として、今年も全国的に見て「**無回答率**」が低いことが挙げられます。国語では、14 問中 11 問・理科では 17 問中 11 問が、無回答率 0% と、最後まで諦めずに問題に取り組む力が、日頃の授業の中で養われている表れです。（算数は 16 問中 3 問でしたが、2 問は正答率が低い設問でしたから最後までよく考えていたと言えます）

本校は答えを導き出すためにどのように考えるかという「**日常生活から始める問題解決能力**」をいかに身に付けていくかを研究テーマにしており、「**自分の生活に関係がある**」と子どもが実感できるような学習環境を設定し、解決していくことで、学ぶことは役に立つという手応えを子どもに感じさせていけるよう、努めてまいります。

— . — . — . — . — . — .

（４）児童質問紙

- 「算数・理科で学習したことを、普段の生活の中に活用できていますか？」の質問では、「当てはまる・どちらかという」と当てはまる」の回答が、それぞれ全国・県平均を大きく上回り、学校全体で

取り組んできた学習の成果がある程度表れていると言えます。

- 国語、算数、理科について「解答時間は十分でしたか？」の設問では、「はい」との回答が全国・県を下回り、特に国語が顕著でした。

しかし「解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか？」の質問には、国語・算数・理科とも意欲的にあきらめずに取り組んだの回答が、全国・県を上回っていることから、時間をかけて最後まで粘り強く取り組む姿勢がこの学年の特徴であり、良い面だと感じます。